

「おはようございます」「こんにちは」など挨拶あいさつをされると誰でも気持ちがいいものです。

挨拶あいさつという言葉は、もともと禅ぜんしゅう宗から出た用語です。挨拶を辞書で引くと、まず始めに「禅ぜんの問もん答どうを交わして相手の悟りの深さ浅さを試こころみること」と出てきます。つまり、言葉を交わして相手のことをよく知るということです。禅宗では挨拶をとっても大切にしています。

挨拶には家族や、他の人と向かい合っているものと、手紙など文章であるものがあります。もちろん細かく分ければ、その他にもお歳暮や引き物のように品物を送るなど色々ありますが、何れにせよ人と人との関係をスムーズにするためのものだと思います。

ただ、残念なことに、最近は、家の中でさえもあまり挨拶をしない人や、挨拶をされても無視をする人が増えてきているような感じがします。人と挨拶をしなくても自分の生活には関係ないと思っている人もいるでしょうし、いちいち挨拶するのがうっとうしいと思っている人もいるでしょう。もちろん、それぞれが個々の人格や主張を持つ権利を与えられているのですから、挨拶をしない自由も存在します。

でも、考えてみて下さい。世界中からもし挨拶をする人がいなくなってしまうらどうなるでしょう。私たちは挨拶があるから毎日が充実し、楽しい秩序ある生活を送ることが出来るのではないのでしょうか。

例えば、営業マンが商談をする時、何の挨拶もなく突然営業行動を起こしても、受け入れられることはあり得ないと思います。もしホテルや旅館、飲食店などでも従業員が挨拶をしない所があったとしたら、そこは誰も行かないでしょう。

相手に好感を与える挨拶が出来てこそ、商談がスムーズに行われ、またホテルなどではサービスが良く感じられ、飲食店では食べ物もおいしく提供され、それをおいしく食べることが出来るのです。

挨拶のある世界だからこそ、国や会社での生活、また家庭生活も行い保つことが出

来るのです。世界中で挨拶のない国などどこにもありません。だからこそ、そこに秩序ちつじょが生まれ物事が円滑えんかつに運び、人間の社会が構成されているのではないのでしょうか。

禅の修行道場では、修行僧は必ず合掌をし、深々と頭をさげ挨拶をします。それは相手に対し敬意を払うのと同時に、自分にとっても大切な修行となるからなのです。

私たちには明日のことはわかりません。毎日が新しい生活の始まりなのです。

昨日会った人と今日会っても、日々、新しい生活の中、お互いの出会いを大切にし、気持ちの良い挨拶を交わし合い、充実した毎日を送っていきたいものです。